

令和5年度 第22回公開教育研究大会 基調提案

生徒Agencyを育む

カリキュラム・マネジメント(1)

～ 探究活動を軸としたカリキュラムづくり ～



東京学芸大学附属高等学校

Tokyo Gakugei University Senior High School

これまでの公開研の流れ

R3 『学習評価』を軸としたカリキュラム・マネジメント(3)

～**観点別評価**から考える教育活動の改善～

R4 **観点別学習状況の評価**を活かしたカリキュラム・マネジ

メント～いま問われる学習評価と学校の在り方～

(主体的に学習に取り組む態度に対する評価)



R5 **生徒Agency**を育むカリキュラム・マネジメント(1)

～探究活動を軸としたカリキュラムづくり～

本校の特徴

男女共学・普通科・8クラスのスクールサイズ

全教科・科目必修・学習指導要領に準拠

→ どのような高校でも本校の実践を活用しやすい

課題設定

「生き生きと楽しく自律的に学ぶ生徒」

「Agencyの育成を核に置いたカリキュラム・マネジメント」

「本校の教育実践の積極的な発信」

1.

「Agency」

OECD Education 2030 におけるAgency の重要性
「Agency」と「主体性」

Agencyとは

変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する能力

よりVUCAとなる未来において、「私たちが実現したい未来（The Future We Want）」を実際に実現していくために、エージェンシーが必要になるからである。... エージェンシーとは、「誰かの行動の結果を受け止めることよりも、自分で行動することである。形作られるのを待つよりも、自分で形作ることである。誰かが決めたり選んだことを受け入れることよりも、自分で決定したり、選択することである」と説明されている。

白井俊（2022）OECD Education 2030プロジェクトが描く教育の未来～エージェンシー、資質・能力とカリキュラム

“主体性”とは何が違うの？

「責任」 単に自分たちの欲求を実現することではなく、
属する**社会**に対して責任を負うこと

「行動」 単に行動さえすれば、結果は問われないという
ものではなく、**社会**が良くなる方向に行動して
行くこと（自己と向き合うだけではない）

実際の
社会

学会
専門家

学校
地域

友人
クラス



本人

2.

「2つのものさし」

“自分の教科が担う部分”と“学校全体で行う部分”
“Agencyを育むためのアプローチ”

“2つのものさし”が必要

短期スパンでのものさし（自分の教科が担う部分）

生徒一人一人の資質・能力の伸長

生き生きと楽しく学ぶ生徒を増やす

長期スパンでのものさし（学校全体で行う部分）

学校全体のカリキュラム・マネジメント

探究活動（SSH探究）， 学校行事， キャリア，

SSH， 部活， 外部連携 ...

本校の今年度の取り組み

回	日時	研修テーマ
第0回	3月27日(月) 13:00-15:00	「探究活動ルーブリックをAgencyの視点から再検討する」
第1回	4月27日(木) 16:00-17:00	校内都合により中止
第2回	5月31日(水) 16:00-17:00	「教科・科目のカリキュラムをAgencyの視点から再検討する (1)」
第3回	6月19日(月) 16:00-17:00	「教科・科目のカリキュラムをAgencyの視点から再検討する (2)」
第4回	8月30日(水) 13:00-15:00	「公開研に向けて教科・科目の提案を共有する」

Agencyを育むためのアプローチ

Agencyを育むために必要な条件

「学びが楽しいこと」・「学びが自分ごとであること」・「価値観を変容させる機会があること」

自己との
対話

“創造性”という刺激

ex. 教科や事象への
興味・関心
自己への挑戦

実社会との
つながり

“切実性”という刺激

ex. 「価値選択型課題」
生命倫理, 防災, 原発,
人口減少, 脱炭素...

technology
SSH

“先進性”という刺激

ex. 教科融合
データサイエンス
プログラミング

学ぶ意義・
リアリティ

Agency
生き生きと楽しく
自律的に学ぶ生徒

探究する意義・
リアリティ

自律的に学ぶ
サイクル

授業

問題解決型の授業, 資質・能力の育成
探究の過程も習得できる

両輪

探究活動

“問いを立てる”という特徴
好奇心が原動力・試行錯誤の場

実践の
発信・
普及

探究活動（次期SSH）と本校カリキュラムとの連動性

テーマ案：生徒Agencyを育む次世代人材のための理数カリキュラムの開発（仮）

トップアップ：次世代の研究者・スペシャリストに必要なこと（正課外・有志生徒）

探究活動



- ✓ Agencyを育む探究活動
- ✓ 本校カリキュラムの軸に
- ✓ 「社会課題」＋「基礎科学」のグループ構成
- ✓ 外部連携，外部発表会
- ✓ 生徒の背中を押すような指導を

国際交流



STUDENTS' JOINT RESEARCH

- ✓ Agencyを育むキッカケ
- ✓ コロナ禍での共同研究
- ✓ PCSHSCRとの渡航再開
- ✓ 国際交流の充実のため国内の他校との連携強化

特別授業



無重力実験講座



世田谷ワークショップ

- ✓ Agencyを育むモデル
- ✓ 興味・関心を広げる窓口，加速させる装置

ボトムアップ：
次世代のリーダー・市民に
必要なこと（正課内・全生徒）

授業のアップデート

- ✓ Agencyを育む授業
- ✓ 「探究の過程」を習得する理数教科の授業
- ✓ 教科融合など新しい授業づくり
- ✓ 学校設定教科・学校設定科目の活用

3.

今後の方向性

“授業に近い部分”と“授業以外の部分”
“Agencyを育むためのアプローチ”

今後の方向性のキーワード

どのように生徒Agencyを育む？



カリキュラム・マネジメントの見える化

- 探究活動との連動性， 教科融合・教科連携によるカリキュラム改善
- カリキュラム運営の持続可能性とカリキュラム・オーバーロード



“学びの質”の向上

- “個別最適な学び”と“協働的な学び”
- “自己調整”と“自己調整の方向性”

令和5年度 第22回公開教育研究大会

ご静聴ありがとうございました。
本日はどうぞよろしくお願い致します。



東京学芸大学附属高等学校
Tokyo Gakugei University Senior High School